

板橋・旧田中家住宅 見どころ

— 典型的な農家の古民家 —

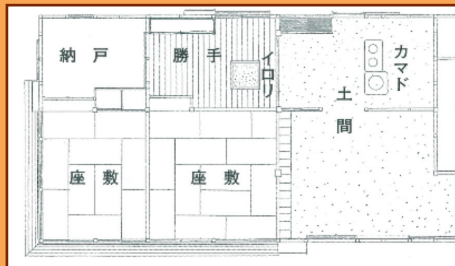
● 江戸後期～明治初期の古民家

旧田中家住宅は、江戸時代の終わりごろから明治時代の始めにかけての建築と言われ、幾度かの改築を経て、昭和46年(1971)まで板橋区徳丸5丁目にあったものを、板橋区立郷土資料館の敷地内へ移築・公開しています。建物としての大きな特徴として、2つの座敷と勝手と納戸の四間取りで、上から見ると田の字型の間取りとなっています。こうした造りは、江戸期以来の農家に見られる典型的な建築様式です。

旧田中家住宅が移築した契機は、昭和38年の徳丸石川土地区画整理事業でした。この事業にともない道路を通すことになったため、活用の一環として当時建築工事を行っていた郷土資料館へ民俗の展示室として昭和47年に移築されました。

現在の旧田中家住宅は、建物内の見学だけでなく、農具の展示や年中行事をもとに四季折々の飾り付けをしています。

公式Twitterで様々な情報を発信中!



間取り

～四季折々～



縁側の干柿



マユダマ飾り



ひな飾り



七夕飾り



お月見飾り



雪化粧